

実証成果 岡村農園ほか（福岡県北九州市）

実証課題名 デジタル技術を活用した農業支援人材の育成作業の集約と活用モデルの実証

経営概要 395a(水稲、施設、露地)、  
うち実証面積：トマト 10a、ミニトマト 2a、大葉春菊 28a、ナス 10a



導入技術 ①農業支援人材育成、②農作業履歴記録システム、③農業支援人材データベース、  
④農作業環境監視機器、⑤地域需給データ共有、⑥共同利用通信基地局 (LoRaWAN®方式)



目標 ●農業支援人材を10名育成、生産者が希望する日程・作業に対する人材供給の(実績/求人)充足率90%  
●生産者の直売所販売額10%増、産地全体での経営収支(利益/収入)10%増

1 目標に対する達成状況

○農業支援人材は18名育成し、うち8名が支援人材として従事した。生産者5名が要望した日程・作業に対する充足率は61.8%となった(2か年通期で110回のマッチング)。育成した残りの10名の支援人材についても、勤務の条件が合えば、現場支援が可能な人材として活用が期待される。  
○直売所POSデータの活用による値付けの工夫等により、2023年夏作の生産者のトマト売上は2021年比39%増となった。農業支援人材や直売所POSデータをシェアする生産者人数が地区全体の生産者の1割程度である中で、産地全体の経営収支は4.7%増加した。

2 導入技術の効果

農業支援人材育成

- これまで生産者が必要に応じて個別に実施していた農業支援人材の育成を市立総合農事センターにて共同実施
- 講義と実習の様子を動画コンテンツ化したことで、実習後に復習することができ、都合がつかずに欠席した受講生も学習可能となった



環境モニタリング機器

- 環境モニタリングデータを参照して、こまめな灌水やカーテン作動時間を変更するなどの栽培管理の改善に繋がった



農業支援人材データベース

- 共同育成した人材をデータベース化して地域の生産者でシェアできる環境整備を実施
- 農業SNSツール「菜園ナビ」と連携して現場作業の実績を記録
- どのような経験・スキルを持つ人材なのかをわかりやすく可視化した

11月13日(月) 大葉春菊の定植 岡村さん、5名

11月13日(月) 大葉春菊の定植 岡村さん、5名

2023/11/13 コントラクト(株) 各地で農業支援人材データベースにシェアしての2023年11月実績

・日時: 2023年11月13日(月)

・場所: 北九州市の農産区

・開催: 岡村さんのハウス

・作業: 大葉春菊の定植

・下書きを撮影した写真

・参加者には各自が撮影した写真のボット 連絡先には本取多めのコメントも届く

・参加したこと

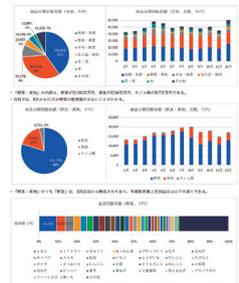
・個人が参加で作業すること

・参加: 予定のこと

・2回分の大葉春菊の定植作業を行いました。最初はマニュアルの穴の土も掘ってから掘って(書いて)いたので、掘

直売所POSデータ活用

- 直売所POSデータを自動集計し帳票化するツールを作成
- データ可視化により、生産者個々ではつかみきれなかった地域全体の需給動向を把握しやすくし、値付けや出荷量、生育管理に役立てる



3 事業終了後の普及のための取組

○人材募集の説明会や育成カリキュラムの充実を推進する。充足率60%を基準値とし、農業支援人材数の増大を図る。  
○直売所POSデータの解析結果を直売所会員向けにWeb公開するなど、生産者が需要動向を確認し、自身の経営に反映できる仕組みを整えていく。  
○データを有効活用するためには、データ活用スキルの育成が必要であり、生産者や農業法人に対して勉強会などの普及活動を定期的に実施し、スマート農業の機運を醸成する。

問い合わせ先 北九州市産業経済局 農林水産部農林課 (Tel: 093-582-2078)